

慢性期入院医療の包括評価調査分科会

報告書

— 資料編 —

平成22年診療報酬改定における療養病棟入院基本料の見直し

療養病棟入院基本料の再編成

➤ 評価区分の見直しと適正化

【改定前】

【算定要件】

25:1配置

ただし医療区分2・3が8割以上の場合には20:1配置が必要

	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3
ADL 区分3	885	1,320	1,709
ADL 区分2	750		
ADL 区分1		1,198	



【改定後】

療養病棟入院基本料 1

【算定要件】

20:1配置(医療区分2・3が8割以上)

	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3
ADL 区分3	934	1,369	1,758
ADL 区分2	887	1,342	1,705
ADL 区分1	785	1,191	1,424

療養病棟入院基本料 2

【算定要件】

25:1配置

(単位:点)

	医療区分 1	医療区分 2	医療区分 3
ADL 区分3	871	1,306	1,695
ADL 区分2	824	1,279	1,642
ADL 区分1	722	1,128	1,361

➤ 日々の患者の状態像や提供されている医療サービスに関するデータ提出を療養病棟入院基本料の要件として追加

医療区分

<p>医療区分3</p>	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモン ・医師及び看護師により、常時監視・管理を実施している状態 <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間持続点滴 ・中心静脈栄養 ・人工呼吸器使用 ・ドレーン法 ・胸腹腔洗浄 ・発熱を伴う場合の気管切開、気管内挿管 ・感染隔離室における管理 ・酸素療法(酸素を必要とする状態かを毎月確認)
<p>医療区分2</p>	<p>【疾患・状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー ・多発性硬化症 ・筋萎縮性側索硬化症 ・パーキンソン病関連疾患 ・その他の難病(スモンを除く) ・脊髄損傷(頸髄損傷) ・慢性閉塞性肺疾(COPD) ・疼痛コントロールが必要な悪性腫瘍 ・肺炎 ・尿路感染症 ・リハビリテーションが必要な疾患が発症してから30日以内 ・脱水かつ発熱を伴う状態 ・体内出血 ・頻回の嘔吐かつ発熱を伴う状態 ・褥瘡 ・末梢循環障害による下肢末端開放創 ・せん妄 ・うつ状態 ・暴行が毎日みられる状態(原因・治療方針を医師を含め検討) <p>【医療処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析 ・発熱又は嘔吐を伴う場合の経腸栄養 ・喀痰吸引(1日8回以上) ・気管切開・気管内挿管のケア ・頻回の血糖検査 ・創傷(皮膚潰瘍 ・手術創 ・創傷処置)
<p>医療区分1</p>	<p>医療区分2・3に該当しない者</p>

ADL区分

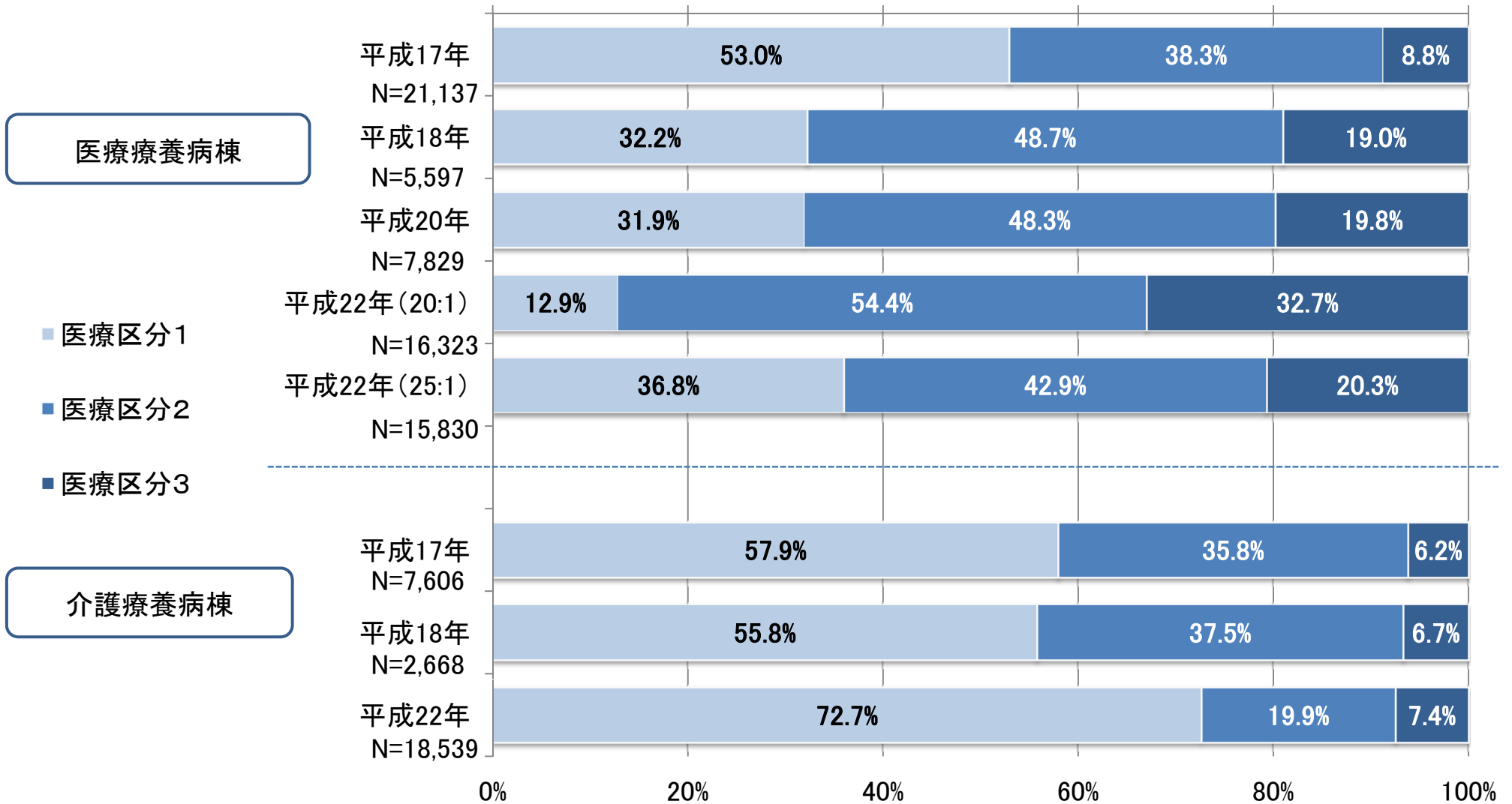
0	自立	手助け、準備、観察は不要又は1～2回のみ
1	準備のみ	物や用具を患者の手の届く範囲に置くことが3回以上
2	観察	見守り、励まし、誘導が3回以上
3	部分的な援助	動作の大部分(50%以上)は自分でできる・四肢の動きを助けるなどの体重(身体)を支えない援助を3回以上
4	広範な援助	動作の大部分(50%以上)は自分でできるが、体重を支える援助(例えば、四肢や体幹の重みを支える)を3回以上
5	最大の援助	動作の一部(50%未満)しか自分でできず、体重を支える援助を3回以上
6	全面依存	まる3日間すべての面で他者が全面援助した(及び本動作は一度もなかった場合)

6段階で評価し合計
各項目について

項目	支援のレベル
ベッド上の可動性	
移乗	
食事	
トイレの使用	
(合計点)	

ADL区分	ADL得点
1	0～10
2	11～22
3	23～24

医療区分の年次推移



出典：平成17～20年；慢性期入院医療の包括評価に関する調査
平成22年；医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査

医療区分・ADL区分の状況の推移

【22年度調査】

	医療療養病棟(看護配置20:1) (n=16,323)			医療療養病棟(看護配置25:1) (n=15,830)		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
	(n=2,101)	(n=8,881)	(n=5,341)	(n=5,821)	(n=6,791)	(n=3,218)
ADL区分3	6.2%	32.1%	26.5%	14.0%	23.3%	15.6%
ADL区分2	4.2%	14.9%	4.1%	12.3%	11.8%	3.0%
ADL区分1	2.3%	7.0%	1.9%	10.2%	7.5%	1.4%
全体	12.9%	54.4%	32.7%	36.8%	42.9%	20.3%

【20年度調査】

	医療療養病棟 (n=7,829)		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3
	(n=2,498)	(n=3,781)	(n=1,550)
ADL区分3	10.4%	26.4%	15.0%
ADL区分2	9.5%	13.0%	3.3%
ADL区分1	11.9%	8.9%	1.5%
全体	31.9%	48.3%	19.8%

医療療養病棟と介護療養病棟の比較

【22年度調査】

	医療療養病棟(看護配置20:1) (n=16,323)			医療療養病棟(看護配置25:1) (n=15,830)			介護療養病棟(病院) (n=18,539)		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
ADL区分3	6.2%	32.1%	26.5%	14.0%	23.3%	15.6%	36.5%	13.0%	5.7%
ADL区分2	4.2%	14.9%	4.1%	12.3%	11.8%	3.0%	27.0%	5.4%	1.3%
ADL区分1	2.3%	7.0%	1.9%	10.2%	7.5%	1.4%	7.8%	1.4%	0.3%
無回答	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	1.4%	0.1%	0.1%
全体	12.9%	54.4%	32.7%	36.8%	42.9%	20.3%	72.7%	19.9%	7.4%

レセプト調査とコスト調査

レセプト調査

- 横断調査で調査対象となった患者の1月当たりのレセプトを収集して調査。
今回は、各調査年度において、レセプト調査に回答のあった全患者のレセプトを比較。

医療療養病棟の患者1人1日当たり収入金額

	レセプト請求金額 (円)	対象数 (N=レセプト件数)
22年度調査(20対1)	17,616	8,514
22年度調査(25対1)	14,476	8,374
20年度調査	16,200	2,980

コスト調査

- 医療療養病棟を有する病院に対して、平成21年度と22年度の収支状況を調査。
今回は、両時点において病床数に変化のない病院について比較。

コスト調査の結果

医療療養病棟を有する病院の収支状況(1施設あたり収支状況)

■総許可病床数に占める医療療養病床100%の病院

	看護配置20対1病棟を有する病院				看護配置25対1病棟を有する病院			
	金額(千円)		構成比率		金額(千円)		構成比率	
	平成21年 6月	平成22年 6月	平成21年 6月	平成22年 6月	平成21年 6月	平成22年 6月	平成21年 6月	平成22年 6月
I. 医業収入	72,185	72,269	100.0	100.0	48,313	49,916	100.0	100.0
1 入院診療収入	52,861	53,281	73.2	73.7	40,160	41,732	83.1	83.6
2 外来診療収入	17,163	16,766	23.8	23.2	6,582	6,511	13.6	13.0
3 室料差額収入	955	878	1.3	1.2	468	465	1.0	0.9
4 その他の医業収入	1,122	1,269	1.6	1.8	1,102	1,208	2.3	2.4
5 介護報酬収入	84	75	0.1	0.1	0	0	0.0	0.0
II. 医業費用	65,783	65,679	91.1	90.9	44,802	45,743	92.7	91.6
1 給与費	34,784	35,710	48.2	49.4	27,189	27,743	56.3	55.6
2 医薬品費	8,809	7,784	12.2	10.8	3,109	3,375	6.4	6.8
3 給食用材料費	471	509	0.7	0.7	881	884	1.8	1.8
4 診療材料費・医療 消耗器具備品費	3,491	3,634	4.8	5.0	1,542	1,601	3.2	3.2
5 委託費	4,629	4,456	6.4	6.2	3,475	3,493	7.2	7.0
6 設備関係費	7,247	7,137	10.0	9.9	3,426	3,723	7.1	7.5
7 経費	4,536	4,508	6.3	6.2	3,537	3,245	7.3	6.5
8 その他の医療費用	1,816	1,940	2.5	2.7	1,644	1,679	3.4	3.4
III. 収支差額 (I - II)	6,402	6,590	8.9	9.1	3,512	4,173	7.3	8.4
施設数	7	7	—	—	16	16	—	—
平均病床数	96.0	96.0	—	—	82.5	82.5	—	—
1病床当たりの収支差額	66.7	68.6	—	—	42.6	50.6	—	—

※平成21年6月、平成22年6月の両時点において総許可病床数及び医療療養病棟の病床数に変化のない病院
及び介護報酬収入割合が5%未満の病院の集計である。

○「医療区分・ADL区分に係る評価票」の分析

※「医療区分・ADL区分に係る評価票」及び「患者特性調査票」ともに提出のあった患者について集計。

【22年度調査】

評価項目該当数別件数の状況

評価項目該当数	医療療養病棟20対1				医療療養病棟25対1			
	医療区分・ADL区分に係る評価票		患者特性調査票		医療区分・ADL区分に係る評価票		患者特性調査票	
	件数	構成比%	件数	構成比%	件数	構成比%	件数	構成比%
該当1項目のみ該当する患者数	4,878	53%	3,929	43%	3,884	43%	3,476	38%
該当2項目以上該当する患者数	3,234	35%	4,047	44%	1,784	20%	2,349	26%
該当項目無し (医療区分1)	1,029	11%	1,165	13%	3,440	38%	3,283	36%
合計	9,141	100%	9,141	100%	9,108	100%	9,108	100%

(参考)平成20年度調査

評価項目該当数	医療区分・ADL区分に係る評価票		患者特性調査票	
	件数	構成比%	件数	構成比%
該当1項目のみ該当する患者数	329	69%	2,479	46%
該当2項目以上該当する患者数	147	31%	2,904	54%
合計	476	100%	5,383	100%

医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査の概要

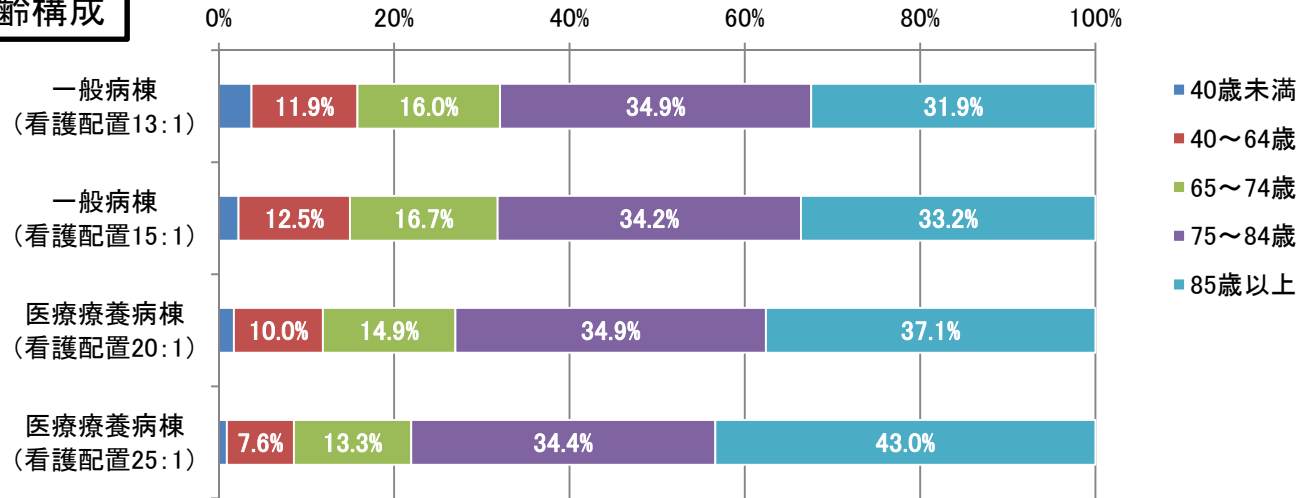
○調査時期 : 平成22年6月実施

○調査方法 : 療養病床等の入院患者等の状態を、共通尺度を用いて横断的に把握。

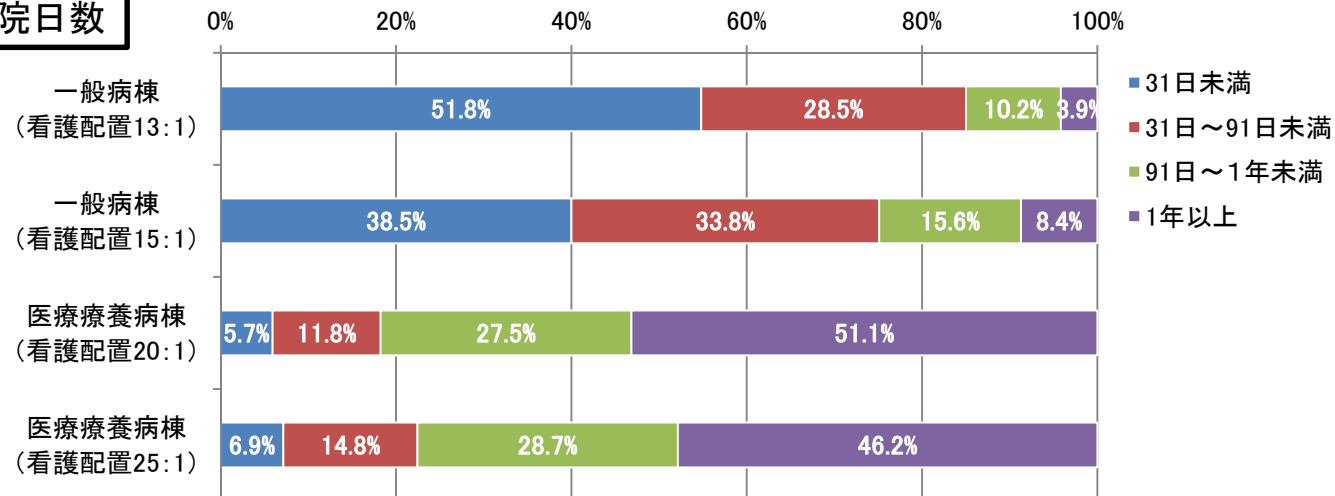
調査対象施設	発送数 (単位:施設) ①	回収数		回収率 ②÷①	レセプト 件数 ④	割合 ④÷③
		施設票 (単位:施設) ②	患者票等 (単位:人) ③			
一般病棟13対1入院基本料の算定 病棟を有する病院	651	254	4,498	39.0%	2,898	64.4%
一般病棟15対1入院基本料の算定 病棟を有する病院	1,334	567	9,142	42.5%	5,671	62.0%
療養病棟入院基本料の算定病棟 を有する病院	2,744	1,615	32,153	58.9%	19,899	61.9%
介護療養病棟を有する病院	1,597	951	18,539	59.5%	-	-

対象者の年齢構成と在院日数

年齢構成

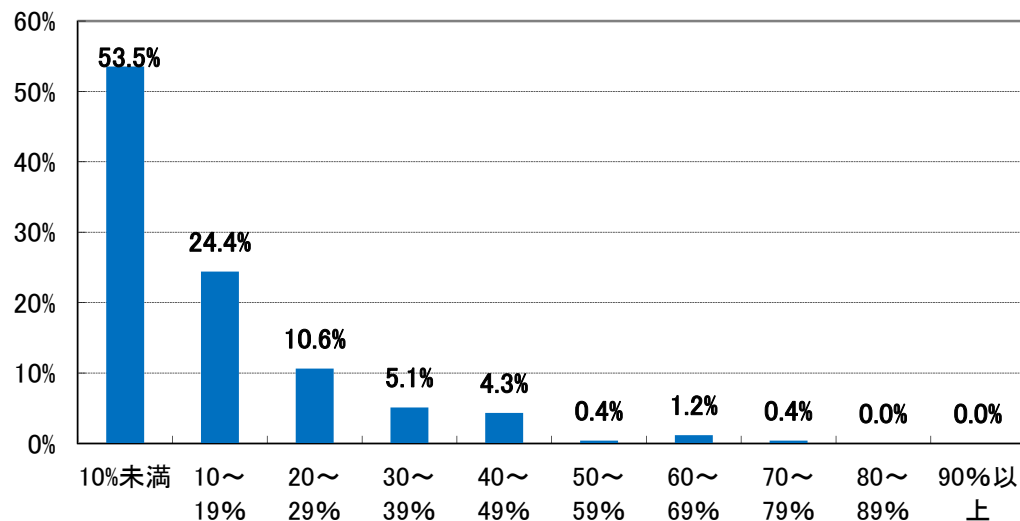


在院日数

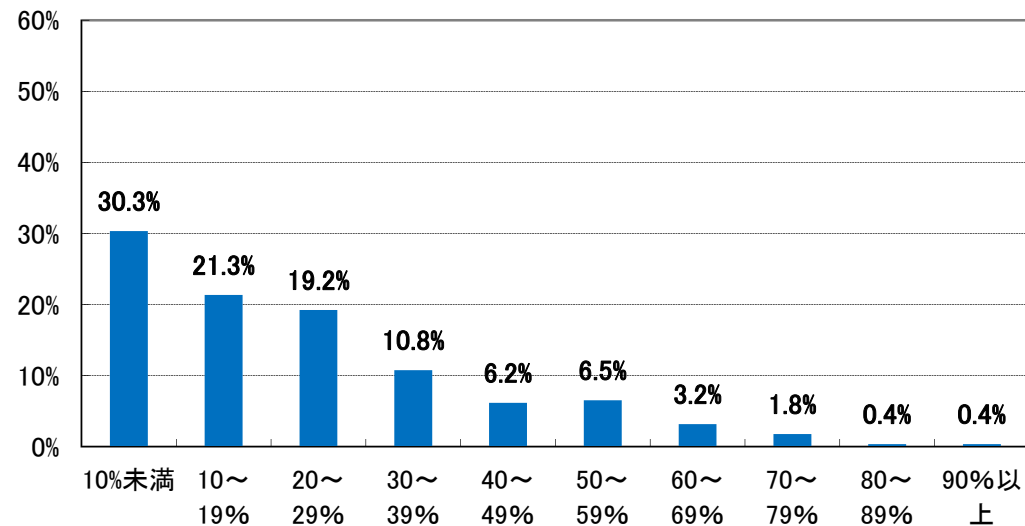


病棟ごとの在院日数90日超え患者の割合

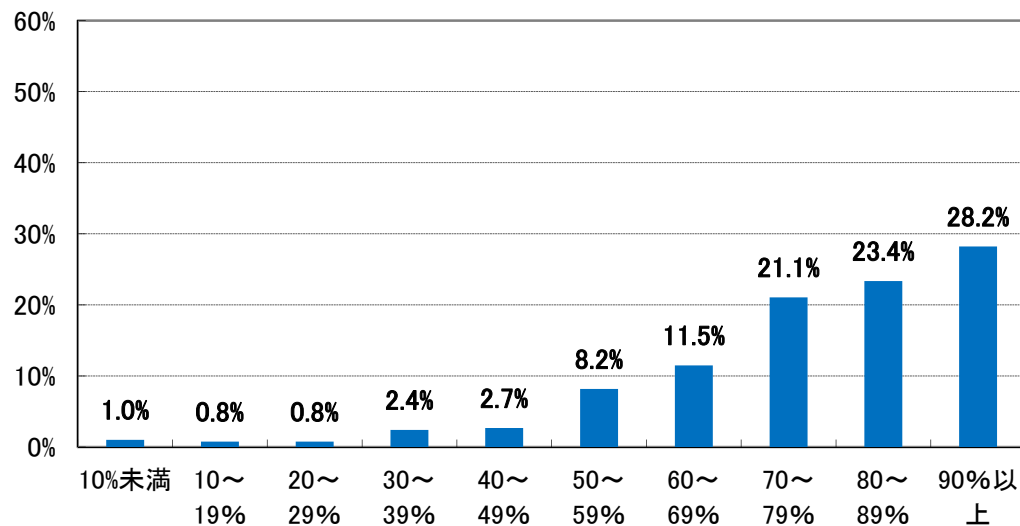
一般病棟(看護配置13:1) N=254施設



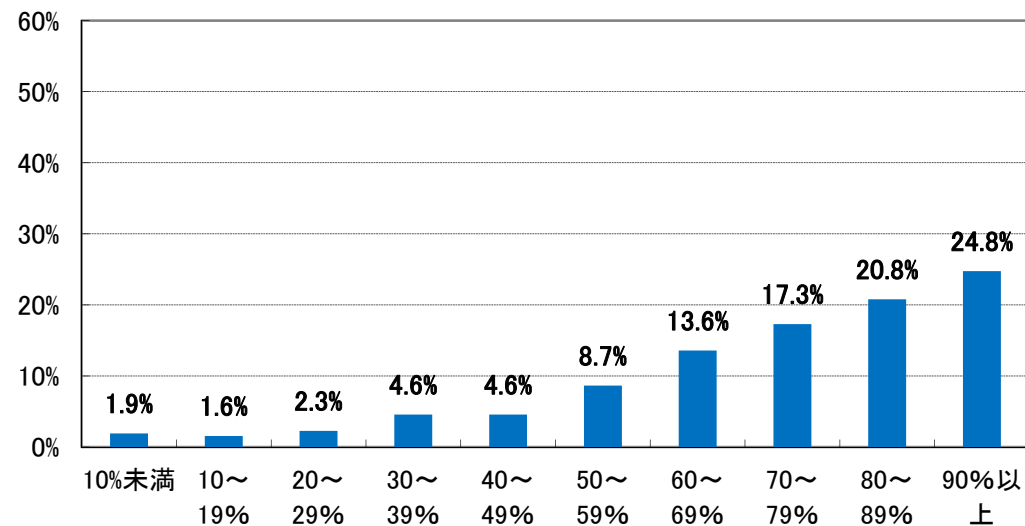
一般病棟(看護配置15:1) N=783施設



医療療養病棟(看護配置20:1) N=567施設

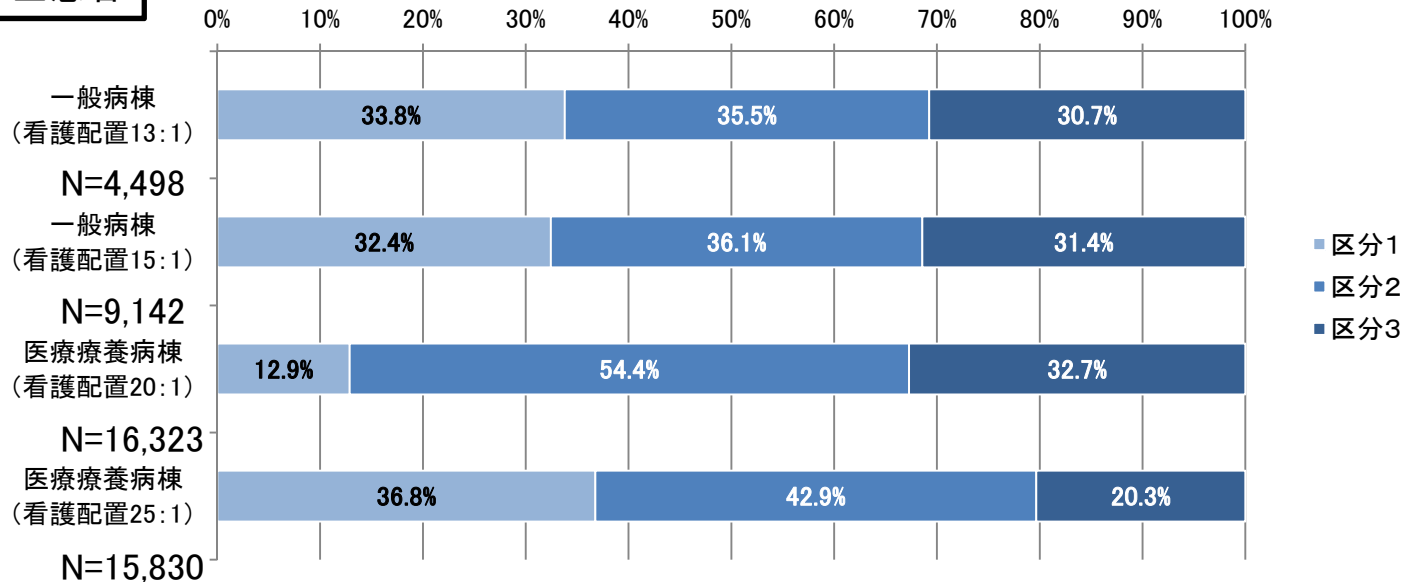


医療療養病棟(看護配置25:1) N=832施設

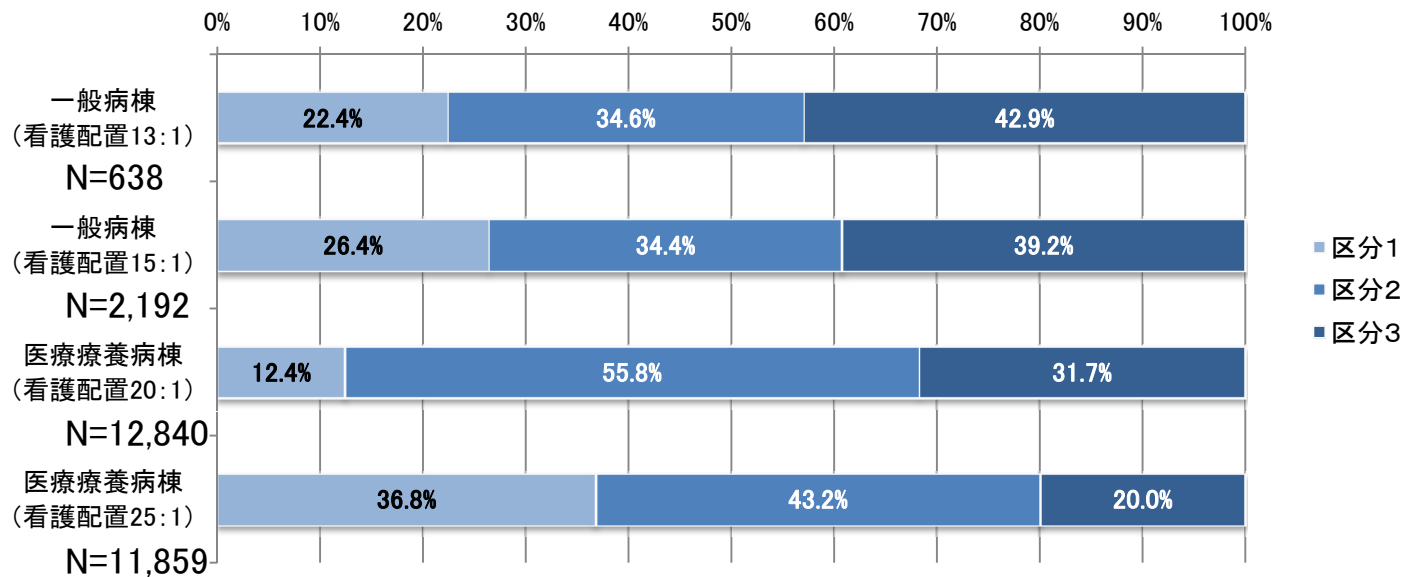


医療区分の病棟ごとの比較

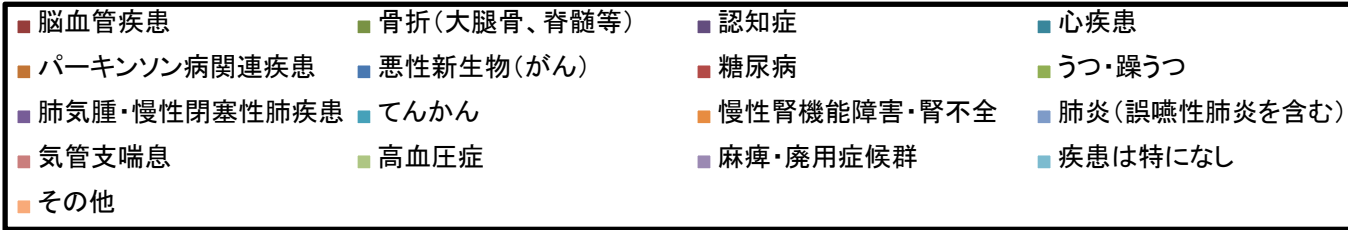
全患者



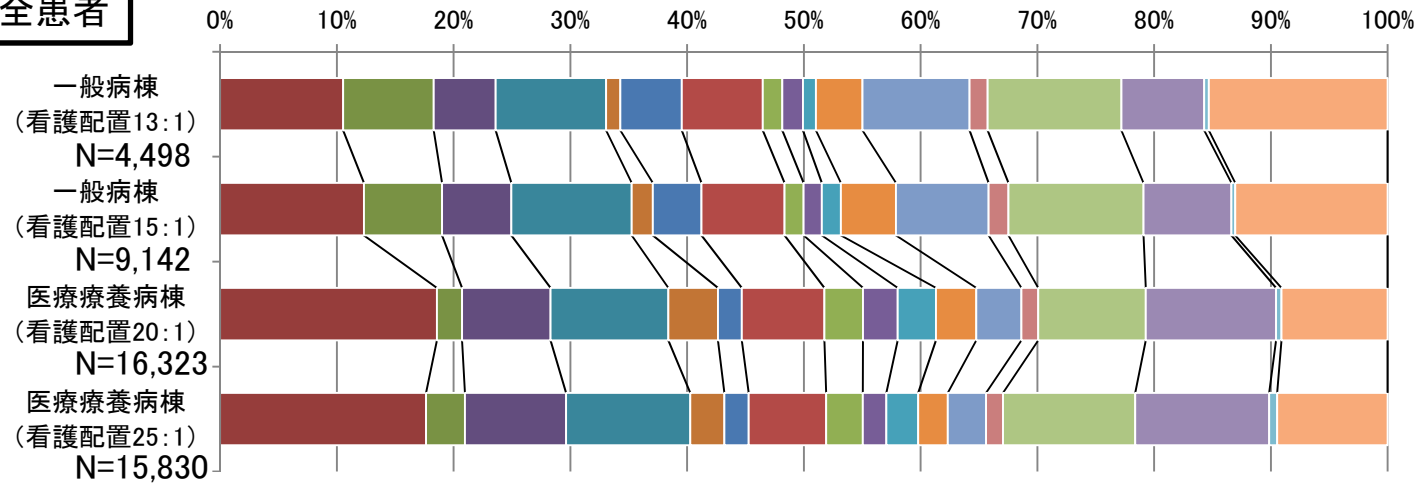
(再掲) 在院90日超えの患者のみ



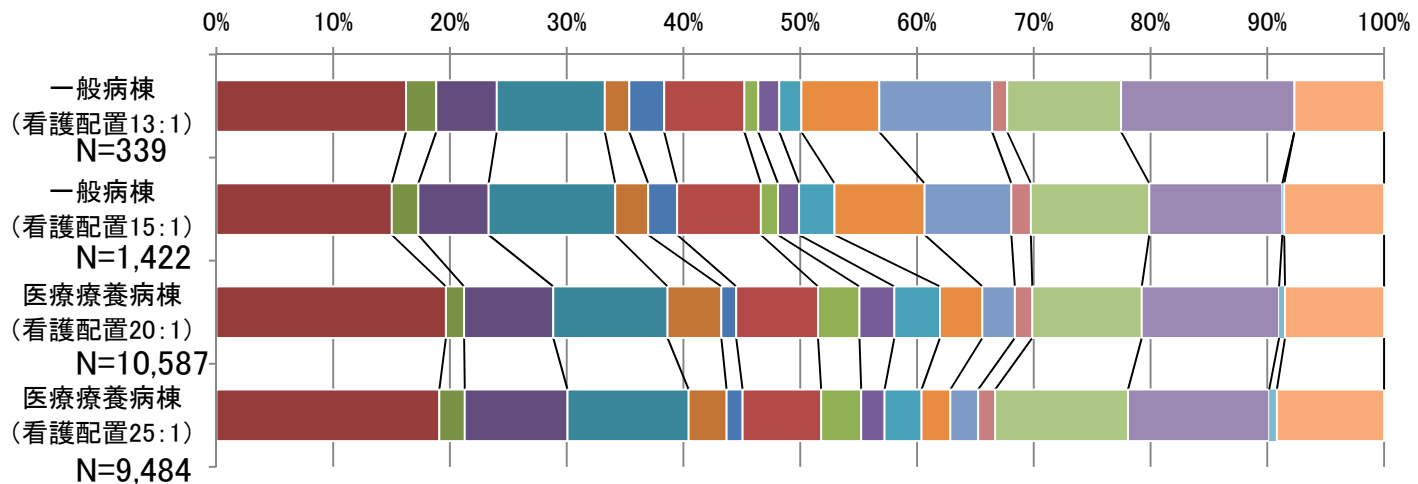
疾患別構成(現在治療中の疾患)



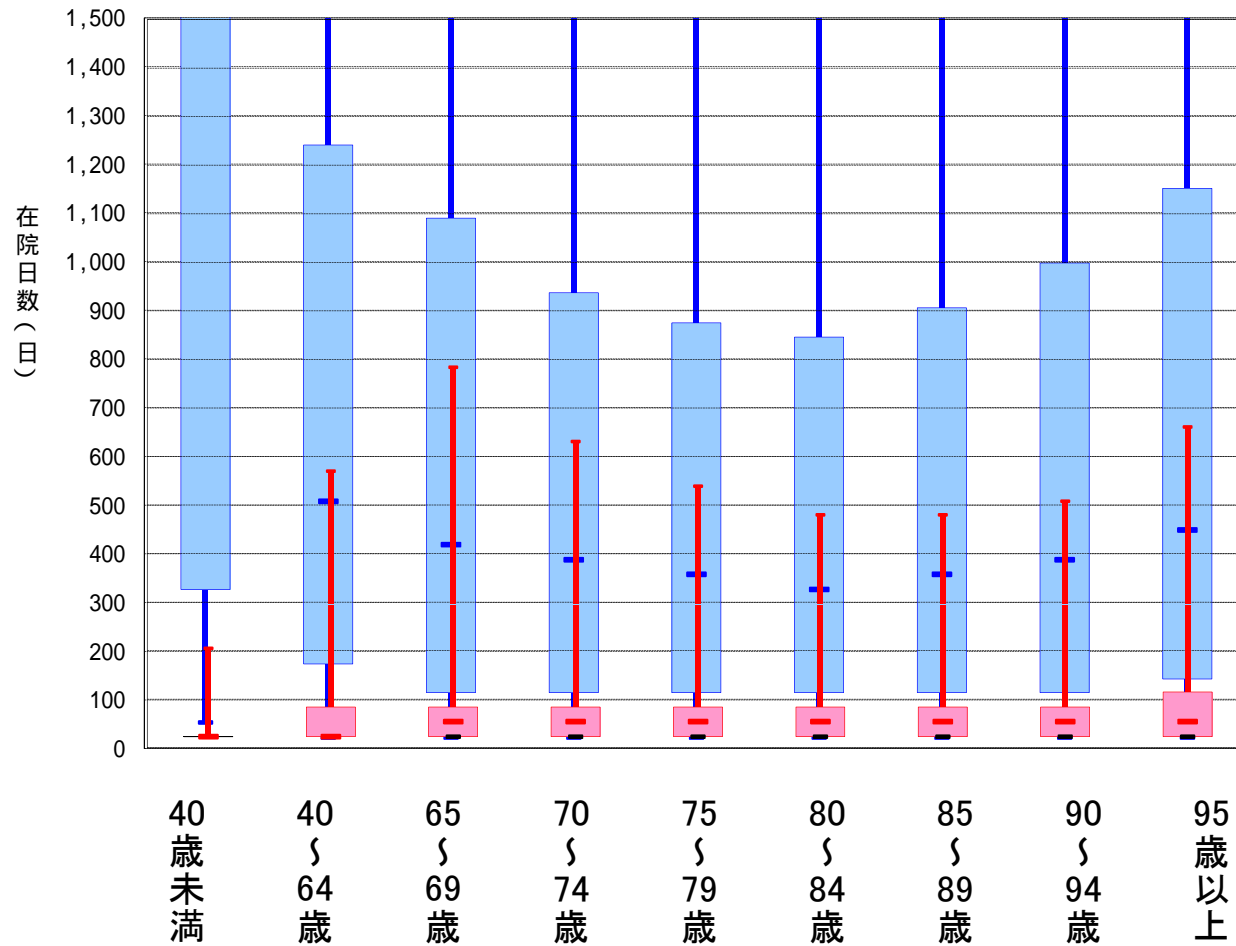
全患者



(再掲) 30日後の病状の見通し「不変」かつ在院90日超えの患者のみ

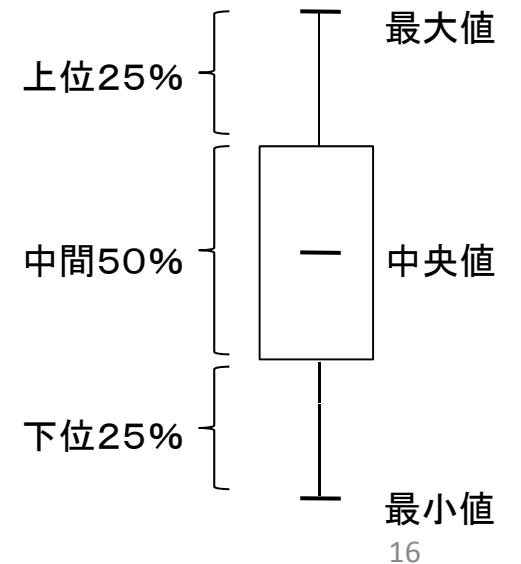


在院日数と年齢のクロス集計(箱ひげ図)



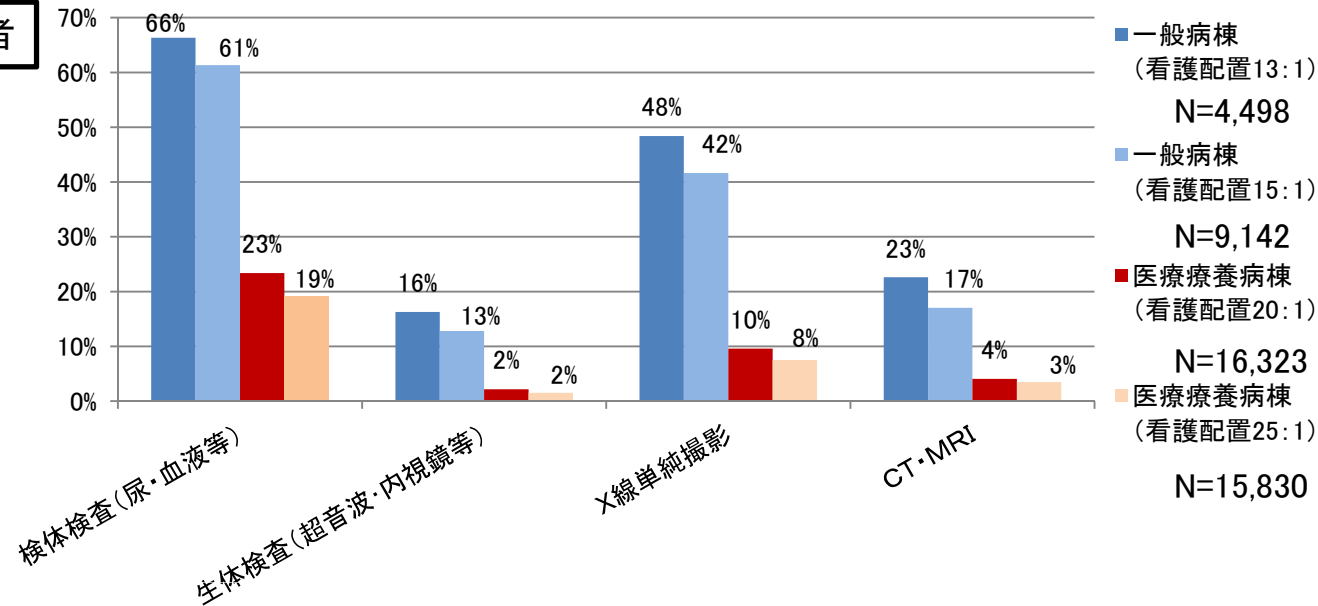
■ 療養病棟
■ 一般病棟
 (13対1、15対1)

(参考)箱ひげ図

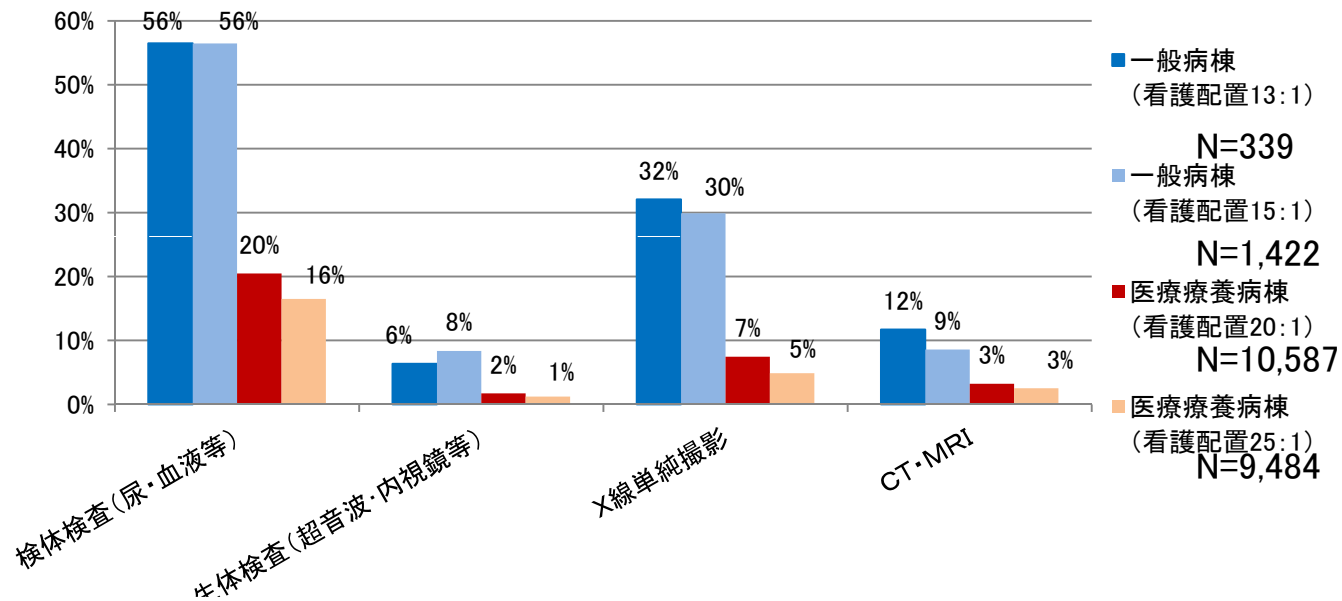


直近一週間の検査の実施状況

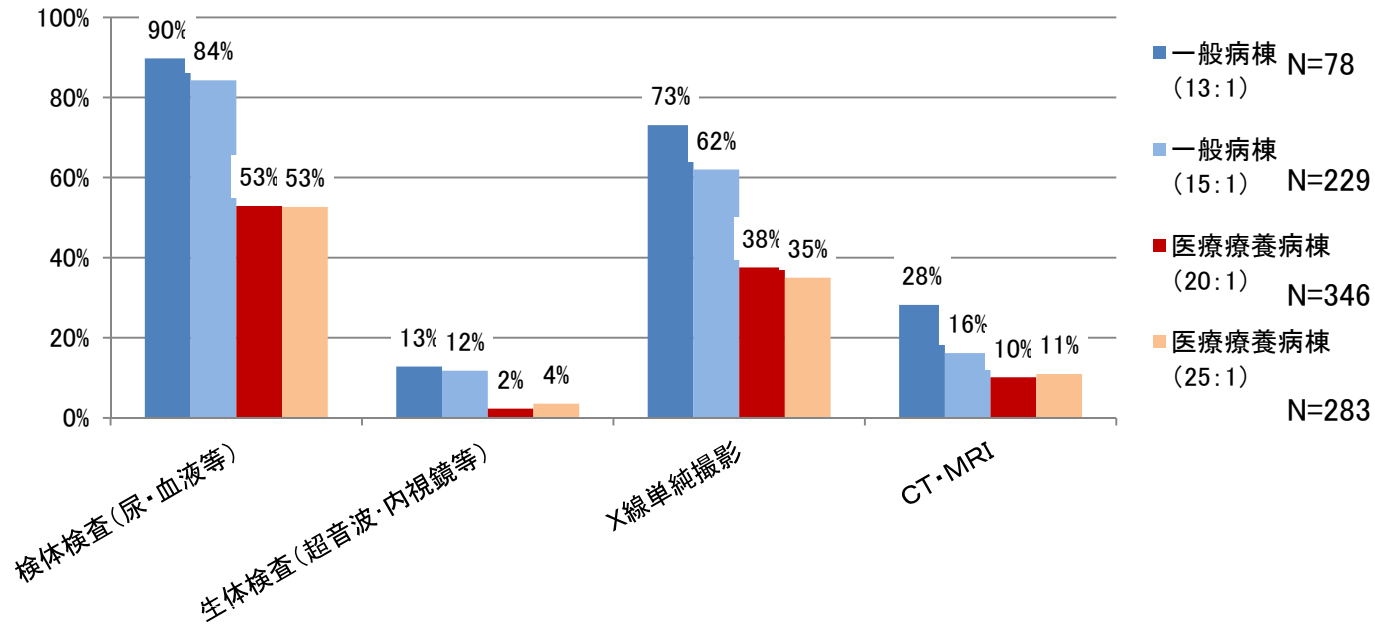
全患者



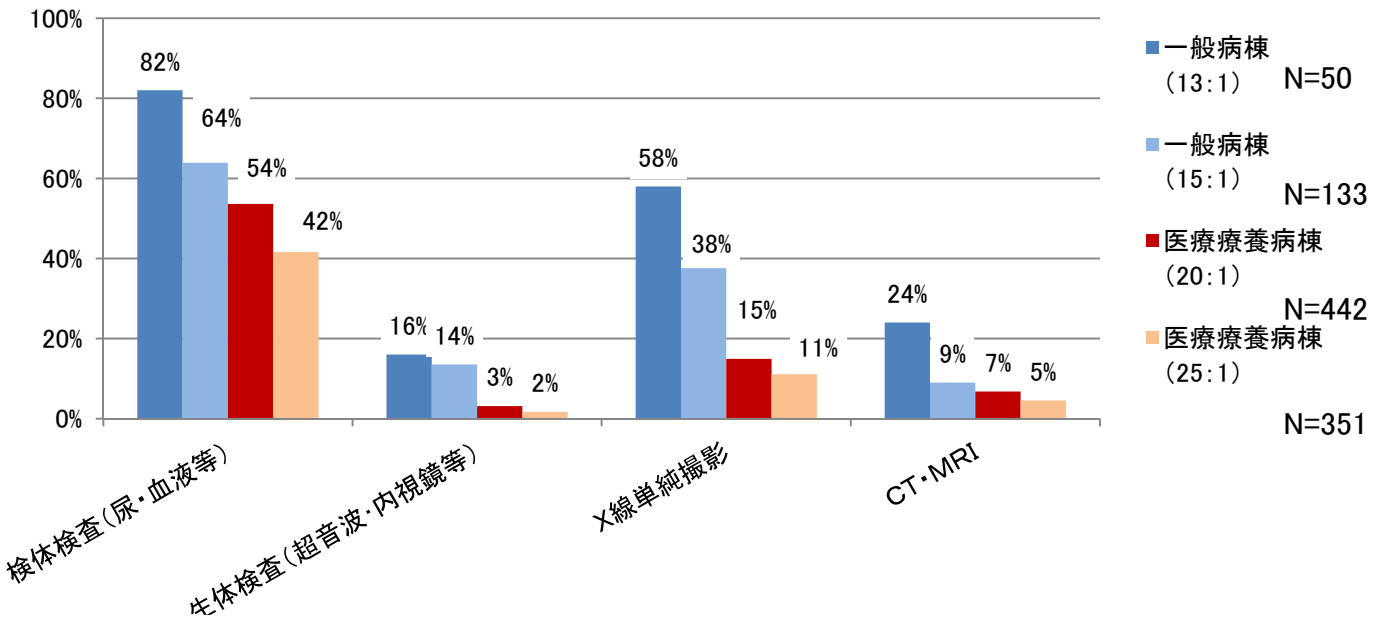
※「在院90日超え」かつ「30日後の病状の見通しが不変」の患者について集計



在院日数90日超えの肺炎患者

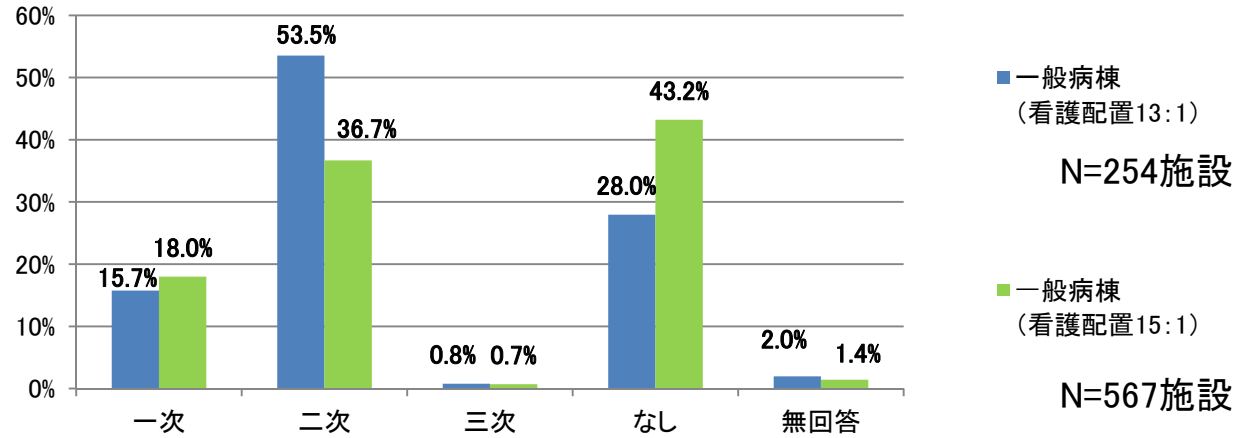


在院日数90日超えの尿路感染症患者

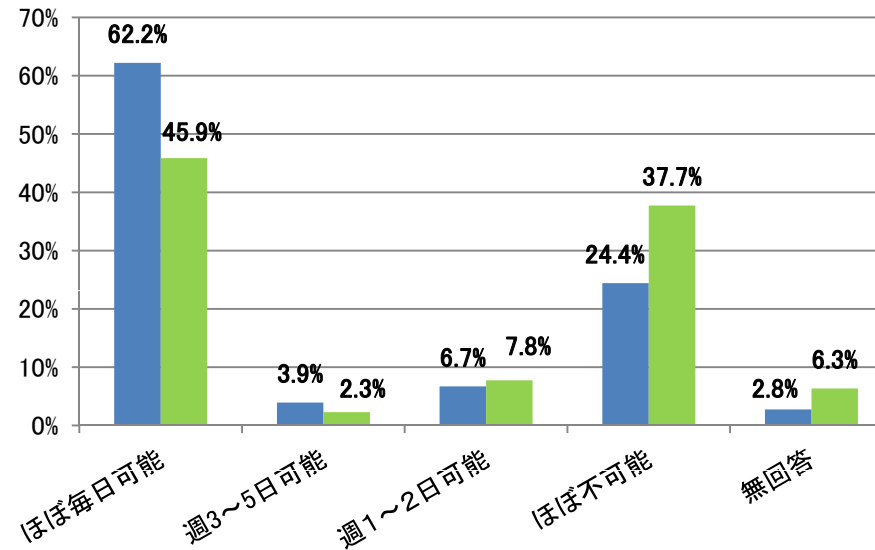


直近1ヶ月の急性期医療の実施状況(一般病棟のみ)

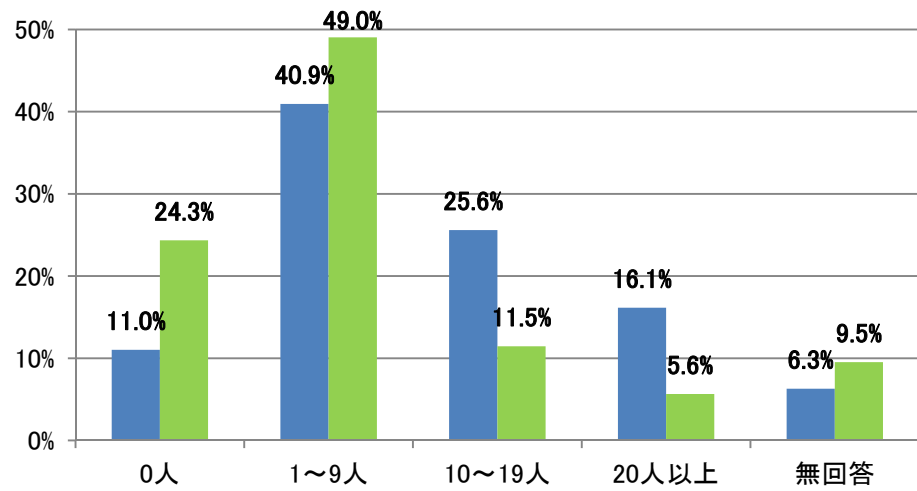
救急告示



24時間救急対応の可否



時間外緊急入院患者数



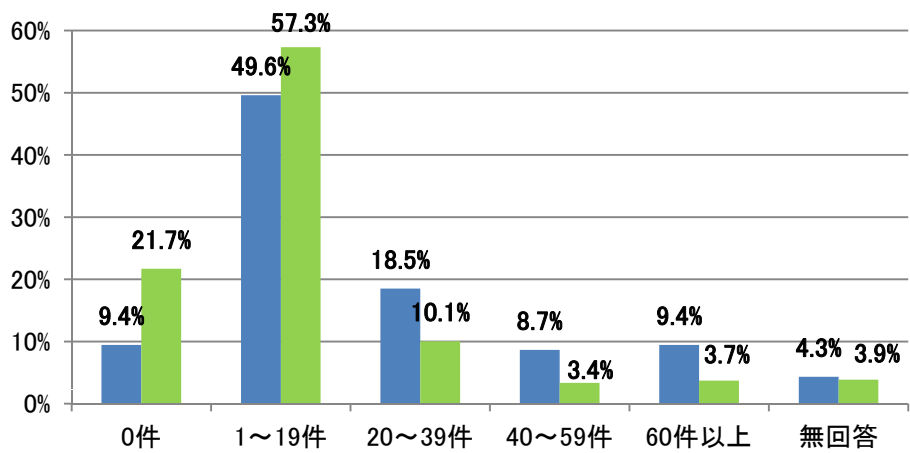
■ 一般病棟
(看護配置13:1)

N=254施設

■ 一般病棟
(看護配置15:1)

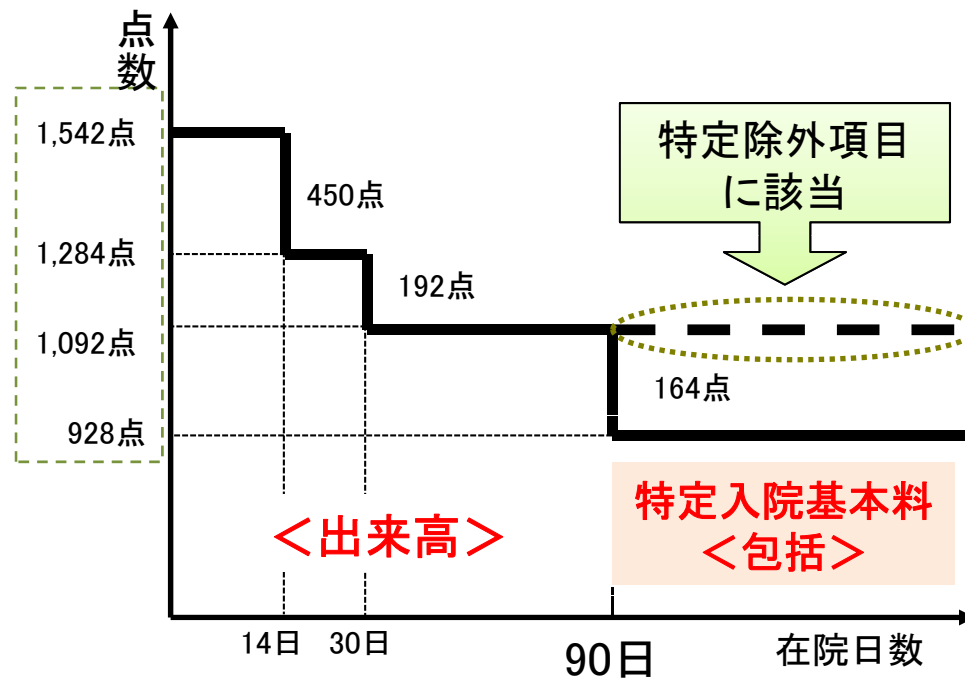
N=567施設

救急車受入件数



一般病棟入院基本料

一般病棟入院基本料	
7対1	1,555点
10対1	1,300点
13対1	1,092点
15対1	934点
特定(包括)	928点



点数は13対1看護配置の場合

特定入院基本料における 特定除外項目

厚生労働大臣が定める状態等にある者

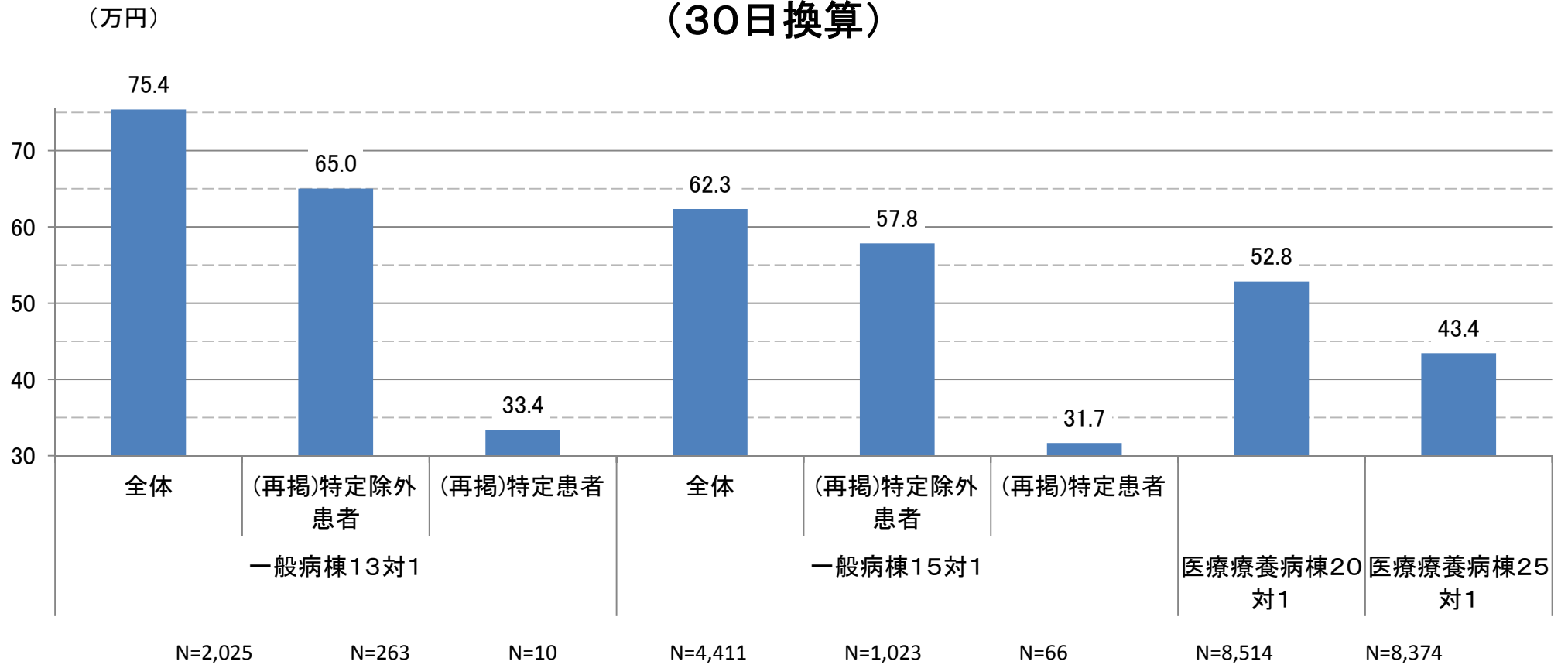
- ①難病患者等入院診療加算を算定する患者
- ②重症者等療養環境特別加算を算定する患者
- ③重度の肢体不自由者(脳卒中の後遺症の患者及び認知症の患者を除く。)、脊髄損傷等の重度障害者(脳卒中の後遺症の患者及び認知症の患者を除く。)、重度の意識障害者、筋ジストロフィー患者及び難病患者等
- ④悪性新生物に対する治療(重篤な副作用のおそれがあるもの等に限る。)を実施している状態にある患者
- ⑤観血的動脈圧測定を実施している状態にある患者
- ⑥心大血管疾患リハビリテーション料、脳血管疾患等リハビリテーション料、運動器リハビリテーション料又は呼吸器リハビリテーション料を実施している状態にある患者(患者の入院の日から起算して180日までの間に限る。)
- ⑦ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態にある患者
- ⑧頻回に喀痰吸引及び干渉低周波去痰器による喀痰排出を実施している状態にある患者
- ⑨人工呼吸器を使用している状態にある患者
- ⑩人工腎臓、持続緩徐式血液濾過又は血漿交換療法を実施している状態にある患者
- ⑪ 全身麻酔その他これに準ずる麻酔を用いる手術を実施し、当該疾病に係る治療を継続している状態(当該手術を実施した日から起算して30日までの間に限る。)にある患者
- ⑫前各号に掲げる状態に準ずる状態にある患者

特定除外患者の分析

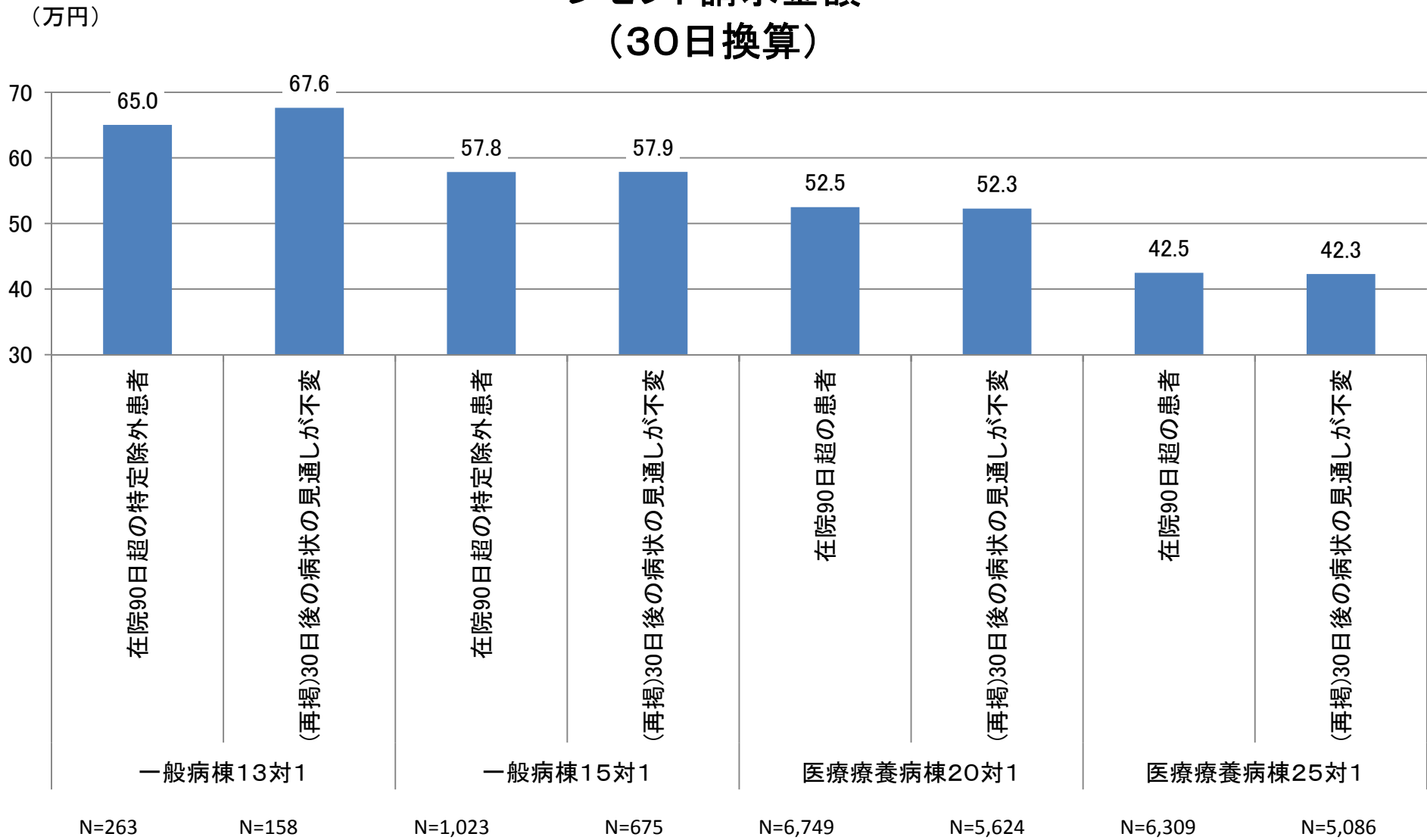
	一般病棟13対1	一般病棟15対1
在院日数90日超え患者に占める割合	96%	94%

特定除外項目	一般病棟13対1		一般病棟15対1	
	該当患者数	構成比%	該当患者数	構成比%
1号 難病患者等入院診療加算を算定する患者	1	0%	16	1%
2号 重症者等療養環境特別加算を算定する患者	2	1%	3	0%
3号 重度の肢体不自由者、脊髄損傷等の重度障害者、重度の意識障害者、筋ジストロフィー患者及び難病患者等	24	9%	204	18%
4号 悪性新生物に対する治療を実施している状態	-	-	12	1%
5号 観血的動脈圧測定を実施している状態	-	-	-	-
6号 リハビリテーションを実施している状態	25	9%	48	4%
7号 ドレーン法若しくは胸腔又は腹腔の洗浄を実施している状態	1	0%	2	0%
8号 頻回に喀痰吸引・排出を実施している状態	29	10%	71	6%
9号 人工呼吸器を使用している状態	1	0%	18	2%
10号 人工腎臓、持続緩徐式血液濾過又は血漿交換療法を実施している状態	5	2%	60	5%
11号 全身麻酔その他これに準ずる麻酔を用いる手術を実施し、当該疾病に係る治療を継続している状態	-	-	2	0%
12号 前各号に掲げる状態に準ずる状態にある患者	1	0%	26	2%
項番不明	188	68%	656	59%
合計	277	100%	1,118	100%

レセプト請求金額 (30日換算)



レセプト請求金額 (30日換算)



(参考)施設基準の比較

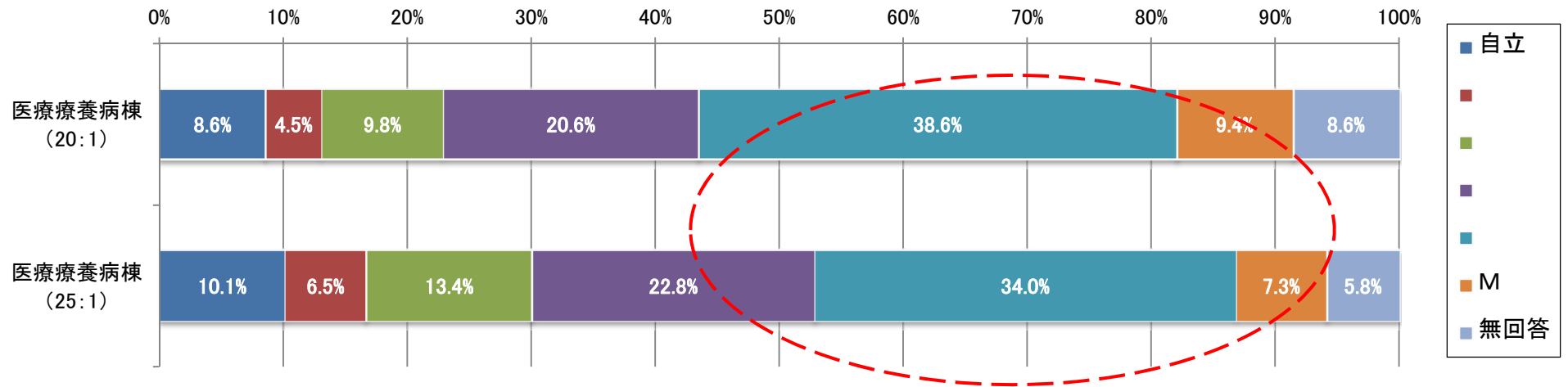
		病院		
		一般病床	医療療養	介護療養型医療施設
主な 人員 配置	医師	16:1	48:1	
	看護	3:1	医療法施行規則上は4:1 ただし平成24年3月までは6:1 診療報酬では療養病棟 入院基本料2として25:1 (医療法方式では5:1に 相当)まで評価。	指定介護療養型医療施設 の人員、設備及び運営に 関する基準で6:1と規定。
	看護補助・介護	—	同上	同上
居室面積		6.4m ² /床※	6.4m ² 以上	

※ 平成13年3月1日時点で既に開設の許可を受けている病院の場合は、以下のとおり。

患者1人を入院させる病室:6.3m²/床 以上

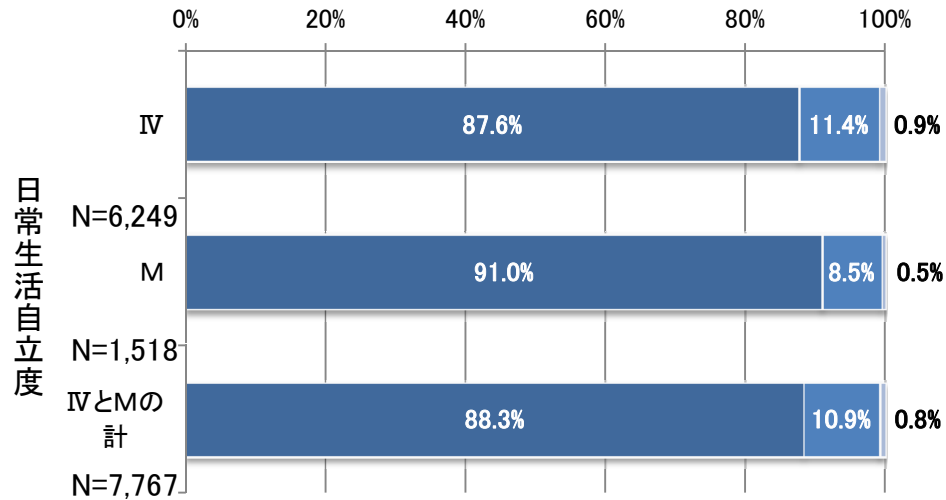
患者2人以上を入院させる病室:4.3m²/床 以上

認知症高齢者の日常生活自立度の状況

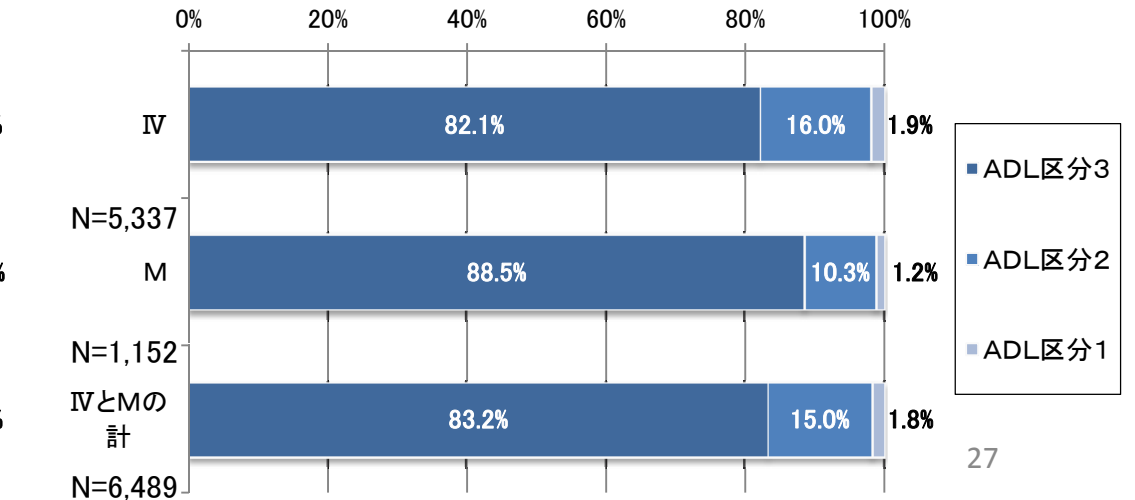


認知症高齢者の日常生活自立度×ADL区分のクロス集計

医療療養病棟(20:1)



医療療養病棟(25:1)



(参考) 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
a	家庭外で上記 の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
b	家庭内でも上記 の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
a	日中を中心として上記 の状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
b	夜間を中心として上記 の状態が見られる。	ランク aに同じ
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

認知症の中核症状と周辺症状

周辺症状 (BPSD*)

行動障害
徘徊
失禁
自傷・他害

精神症状
幻覚
妄想
作話

感情障害
うつ
不安
焦燥

意欲の障害
意欲低下
意欲亢進

中核症状

記憶障害
見当識障害
判断の障害
実行機能の障害

特徴

- ・一部の患者に、経過中にみられることがある
- ・出現する症状やその重症度は様々

*BPSD: Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia
(認知症の行動・心理症状)

対応

- ・薬物投与等の精神科治療技術や、手厚いマンパワーを要する
- ・適切な治療により、多くは1～3ヶ月で改善可能

- ・すべての患者で病期を通じてみられる
- ・徐々に進行し、改善は見込めない

- ・ドネペジル(アリセプト)投与により、進行の遅延が図られる

QI (Quality Indicator) の算出

1. 平成22年度横断調査

QI項目	横断調査患者特性調査 QI算出結果										
	病院数	分母の患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	25%分位点	75%分位点	平均+2標準偏差	はずれ値病院数	はずれ値病院割合
身体抑制	13病院	610人	12.3%	14.0%	0.0%	38.0%	0.0%	23.8%	40.3%	0病院	0.0%
留置カテーテル	20病院	771人	13.4%	11.0%	0.0%	37.1%	5.2%	21.8%	35.4%	1病院	5.0%
尿路感染症	20病院	771人	6.0%	9.1%	0.0%	40.0%	0.0%	9.0%	24.2%	1病院	5.0%
褥瘡	20病院	771人	5.2%	5.3%	0.0%	20.0%	0.0%	8.8%	15.7%	1病院	5.0%

2. 平成20年度調査

QI項目	平成20年度患者特性調査 QI算出結果										
	病院数	分母の患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	25%分位点	75%分位点	平均+2標準偏差	はずれ値病院数	はずれ値病院割合
身体抑制	13病院	1,387人	17.3%	21.3%	0.0%	80.0%	6.1%	24.0%	59.9%	1病院	7.7%
留置カテーテル	20病院	1,832人	14.7%	9.7%	3.7%	35.3%	7.2%	20.0%	34.1%	2病院	10.0%
尿路感染症	20病院	1,832人	13.4%	15.3%	0.0%	60.3%	2.8%	16.9%	43.9%	1病院	5.0%
褥瘡	20病院	1,832人	9.8%	4.8%	1.4%	22.4%	7.1%	12.7%	19.5%	1病院	5.0%

3. 平成18年度調査

QI項目	平成18年度患者特性調査 QI算出結果										
	病院数	分母の患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	25%分位点	75%分位点	平均+2標準偏差	はずれ値病院数	はずれ値病院割合
身体抑制	13病院	1,693人	17.6%	25.4%	0.0%	82.4%	1.0%	18.8%	68.4%	1病院	7.7%
留置カテーテル	20病院	2,057人	12.0%	7.9%	0.0%	27.4%	6.4%	17.1%	27.9%	0病院	0.0%
尿路感染症	20病院	2,057人	7.8%	6.4%	0.0%	20.8%	3.7%	11.3%	20.7%	1病院	5.0%
褥瘡	20病院	2,057人	10.8%	5.7%	3.2%	20.8%	6.4%	17.0%	22.2%	0病院	0.0%

QI (Quality Indicator) の定義

Q I 項目	分子	分母
身体抑制	<p>毎日身体抑制している患者</p> <p>※「身体抑制」は下記のいずれかの行為を一つでも行った場合に該当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四肢、体幹部の抑制 ・ベッドを柵(サイドレール)で囲む ・介護衣(つなぎ服)の着用 ・車いすや椅子から立ち上がれないようにする ・ミトンの着用(手指の機能抑制) (平成18・20年度調査では対象外) ・自分の意志で開けることのできない居室等への隔離 (平成18・20年度調査では対象外) 	全患者
留置カテーテル	膀胱カテーテルを留置、または導尿の処置をしている患者	全患者
尿路感染症	尿路感染症の治療を実施している患者	全患者
褥瘡	<p>第2度以上または2カ所以上の褥瘡があり、褥瘡の治療を実施している患者</p> <p>※「第2度」の褥瘡: 皮膚の部分的喪失; びらん、ただれ、水疱、浅いくぼみ</p>	全患者

※平成18・20年度の患者特性調査に参加した25病院のうち、今回の横断調査についても参加のあった20病院のデータを算出
 ※今回の横断調査と平成18・20年度調査とでは、調査方法やQIの定義に一部違いがあるため、単純比較はできないことに留意が必要。